

防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策 説明資料(医政局分抜粋)

概要: 平成30年北海道胆振東部地震を踏まえ、全国の災害拠点病院等を対象に非常用自家発電設備の整備状況等の緊急点検を行った結果、災害時において病院の診療機能を3日程度維持するために設備の増設等が必要な災害拠点病院等に対して、整備に要する経費の一部を支援する。

府省庁名: 厚生労働省

非常用自家発電設備の増設等の補助

箇所: 125病院

期間: 2020年度まで

実施主体: 民間等の災害拠点病院、
救命救急センター及び周産期母子医療センター

内容: 非常用自家発電設備の増設等(※)に必要な経費の補助を行う。

※ 3日程度診療機能を維持するために必要な非常用自家発電装置の燃料タンクの増設、病院内に燃料備蓄が可能な非常用自家発電装置への更新

達成目標:

災害時に特に重要な医療機能を担う災害拠点病院等において、病院の診療機能を3日程度維持できる非常用自家発電設備の整備を完了

(非常用自家発電装置)



概要: 平成30年7月豪雨を踏まえ、全国の災害拠点病院等を対象に給水設備の整備状況等の緊急点検を行った結果、災害時において病院の診療機能を3日程度維持するために設備の増設等が必要な災害拠点病院等に対して、整備に要する経費の一部を支援する。
府省庁名: 厚生労働省

給水設備の増設等の補助

箇所: 124病院

期間: 2020年度まで

実施主体: 民間等の災害拠点病院、
救命救急センター及び周産期母子医療センター

内容: 給水設備の増設等(※)に必要な経費の補助を行う。

※ 3日程度診療機能を維持するために必要な受水槽の増設、地下水利用給水設備の整備

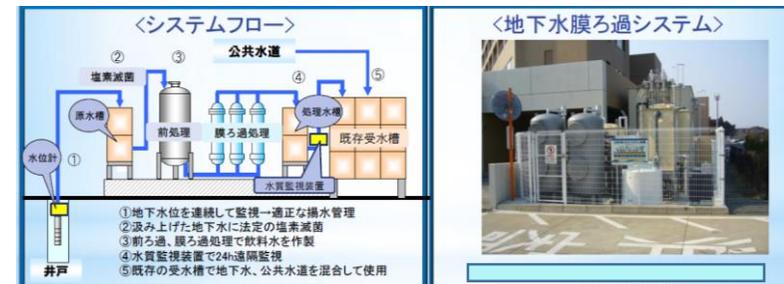
達成目標:

災害時に特に重要な医療機能を担う災害拠点病院等において、病院の診療機能を3日程度維持できる給水設備の整備を完了

(受水槽増設)



(地下水利用システム整備)



災害時を想定した「多様な水源の活用」の一策 → 2元給水化
自社の水確保だけでなく、水供給による地域貢献も可能に

概要: 平成30年北海道胆振東部地震等を踏まえ、自力での移動が困難な在宅患者（訪問診療を受けている者）が使用する人工呼吸器が長期停電時においても稼働できるよう、当該患者を診ている医療機関に対して、停電時に患者に貸し出せる簡易発電装置の整備に要する経費の一部を補助する。

府省庁名：厚生労働省

簡易自家発電装置の整備

箇所: 訪問診療が必要な人工呼吸器使用患者を診ている医療機関

期間: 2020年度まで

実施主体: 医療機関

内容: 訪問診療が必要な人工呼吸器使用患者を診ている医療機関が、長期の停電時に当該患者に貸し出せる簡易自家発電装置の整備に必要な経費の一部を補助する。

達成目標: 在宅で人工呼吸器を使用し、訪問診療を受ける患者が、電力不足により、医療提供に空白が生じないようにするため、簡易発電装置の整備を完了



居宅等

概要: 病院の耐震改修状況については、毎年度調査を行い、災害拠点病院及び救命救急センターの耐震化率は平成29年9月時点で89.4%、病院全体の耐震化率は72.9%であり、いずれもまだ十分とはいえない。

このため、未耐震の災害拠点病院や救命救急センター等の救急医療を担っている病院及び耐震性が特に低い建物(Is値0.3未満)を有する病院等の耐震整備に対する支援を行う。

府省庁名: 厚生労働省

病院の耐震化施設整備の補助

箇所: 未耐震の病院

期間: 2020年度まで

実施主体: 民間等の病院(災害拠点病院や救命救急センター等の救急医療を担っている病院及び耐震性が特に低い建物(Is値0.3未満)を有する病院)

内容: 未耐震の災害拠点病院や救命救急センター等の救急医療を担っている病院及び耐震性が特に低い建物(Is値0.3未満)を有する病院等の耐震整備に対する支援を行う。

達成目標:

病院の耐震整備に関する緊急対策も踏まえ、病院全体の耐震化率を80%以上



概要: 平成30年7月豪雨や平成30年北海道胆振東部地震等を踏まえ、災害時に被災した医療機関の支援に必要な情報を十分に把握するため、広域災害・救急医療情報システム(EMIS)の操作性・機能の改善、情報入力項目の追加等のシステムの改修等を行う。

府省庁名:厚生労働省

広域災害・救急医療情報システム(EMIS)の改修等

箇所:広域災害・救急医療情報システム(EMIS) 一式

期間:2020年度まで

実施主体:国

内容:広域災害・救急医療情報システム(EMIS)のシステム改修等(※)を行う。

- ※ 平時から入力する基礎情報項目(貯水槽や自家発電機の有無、容量、燃料種別等)と被災時に入力する情報項目(残量など)の追加
- ※ 停電時やオフラインでも使えるスマートフォンアプリの開発
- ※ 医療機関が情報を入力しやすくするための操作性やデザインの改善
- ※ 災害時に医療機関に入力を促すプッシュ型システムやアプリの開発 等

達成目標:

広域災害・救急医療情報システム(EMIS)の操作性・機能の改善、情報入力項目の追加等のシステムの改修等を完了

